

街を行く

第13回 神戸 Kobe

お酒落で充分

皆さんも、東日本大震災から思い出されるのは阪神大震災の時のことではないでしょうか。ここ神戸・三ノ宮の街を歩いていると、否が応にも頭に浮かんできます。当時は未曾有の大惨事でしたが、今や見事に復興を遂げており、それも想像以上に速いものでした。今回の震災では原発という思いもよらない難題が道を阻んでいますが、誰もがその解決と復興を信じています。

さて、神戸はいわば関西の横浜です。否、横浜が関東の神戸と言わねばならないかもしれません。関西人にとって、中華街といえば横浜ではなく神戸ですし、ハマのおしゃれなファッションと言えば元町ではなく三ノ宮なのです。大阪生まれの小生にとって異国情緒が溢れるこの港町は、お酒落で流行の最先端がある街でした。それが東京一極集中による関西エリアの激しい地盤沈下のあおりを受けていることは間違いありません。もはやご存知の方は少ないかもしれませんが、三ノ宮は、歩けただけで人とぶつかりそうになるほど賑わっていた頃があります。今や両手を振りながら楽に街を通り抜けることができます。かつての賑わいがいない状況は全国の都市で見られる現象とも言えますが、とりわけ三ノ宮がなぜこれほど寂れたように感じるのか。小生なりに考えると、街が整備され過ぎているからのように思います。大通りは非常に立派ですが、その反面、計画整備された人工都市のように人を寄せ付けぬ雰囲気があります。やっぱり人でごった返している方が神戸らしいですね。

港まで歩くと外人居留地が現れます。む



左：北野の異人館
右：三宮駅前通り、背の高い建物は神戸市役所



かしは外国貿易の拠点だったのだなど、レトロな気分に浸らせてくれます。一度訪れた人はこのエキゾチックさに魅了されることでしょう。また、日本郵船や商船三井に代表される歴史的建造物はかつての日本の隆盛や商人の心意気を感じさせます。時間が止まっている街もまた良いものですね。都市には利便性や生産効率性は重要ですが、そろそろ心をリッチに立ち止まらせることができる余裕も持っていかなければ。

港から大通り伝いに坂を上がるとあの「北野」へと出くわします。風見鶏の館をはじめとする洋館の街です。多くの外国人が故郷を思いながら個性豊かに建てた家々です。やっぱり神戸はお洒落だな！神戸はお洒落なだけの街ではいけないのか？ それだけでも良いじゃないですか。それがこの街の顔なのですから。考えてみると、そもそも関西圏の重要産業は観光です。小生は新しい首都機能の分散や新たな金融都市としての可能性ばかりを

考えていました。それがこうして仕事を離れのんびりと訪れると、変わりたいと思っても今さら無理な街の魅力もあるということ。そして、自分自身の神戸再発見が出来ました。それにしても、今回は美味しいものを探すのも忘れ街をひたすら歩きました。

何か損をしたような…

南 一 弘



1982年大学卒業後、三井不動産販売に入社。ローンスター・ジャパン・アクイジションズを経て、2001年エートス・ジャパン・エルエルシーを設立。同代表に就任。2005年4月MID都市開発(旧松下興産)の代表取締役就任。2006年株式会社ジャパン・アセット・アドバイザーズを設立。同代表取締役就任。

BLOG「南一弘の負けない不動産投資」

http://blog.livedoor.jp/minami_kazuhiro